

まえがき

本書の完成にあたっては、まず優れた恩師の名古屋大学文学研究科の嶋田義仁先生に感謝を申し上げたい。

6年間（2002～2008）の留学生活の中、嶋田先生の驥尾に付して、先生の厳正な学風に触れ、多くの点で啓発を蒙る恩典に浴した。嶋田先生は、日ごろから、筆者を暖かく見守り、本書の執筆段階で勇気を与え、倦まずたゆまず原稿をくり返し読んでくださった。本書の各章に対して厳しくかつ的確なコメントをしてくださったのも、嶋田先生であった。そして、嶋田先生が筆者の処女論文から博士論文まで、日本語の表現や文法を丁寧に修正してくださった。それが先生の多くの貴い時間を費やした。そのことによく不安を抱えていた。学問の道で筆者のほんの少しの進歩は嶋田先生の心血を含んでいる。

嶋田先生の他人の世話を煩わしく思われない広大な度量や精神的なご支援によって、筆者は学業を続けることができた。このような優れた恩師のお世話がなければ、筆者が今どこにいるか分からない。嶋田先生に対する感謝の気持ちは、筆舌で尽くしがたいものがあるが、この場を借りて、重ねて表したい。

さらに、名古屋大学文学研究科比較人文学講座の教授陣の和崎春日先生、阿部泰郎先生、佐々木重洋先生から多くの点でご指導や貴重なご助言をいただき、たいへん勉強になり、筆者の視野を広げた。本書の草稿段階で、千葉大学の児玉香菜子先生に原稿を読んでいただき、貴重なコメントをいただいた。

いつも比較人文講座の先輩や後輩の方々から暖かい応援をいただいた。特に、博士論文の修正段階で、ご協力をしてくださった島本みどり氏、川田桂氏、高村美也子氏、中村亮氏、木村葉子氏、佐藤純子氏、松平勇二氏、中村節子氏などの方々にお礼を申し上げたい。

本書に不可欠なフィールドワークを遂行するにあたって、富士ゼロックス小林節太郎記念基金（2004年度）、日本科学協会（笹川財団）研究助成（2006年度）、大阪経済法科大学アジア研究所若手サポートプログラム（2006年度）の資金面のご援助をいただいた。深く感謝する次第である。また、入学以来、授業料を免

除して下さった名古屋大学学長にお礼を申し上げたい。

また、2002年初めの調査にあたって、調査地の斡旋およびお世話を下さった遼寧省民族研究所の何暎芳副所長、新賓滿州族自治県誌弁公室の曹文奇先生をはじめとする方々に、感謝したい。吉林省の調査地の斡旋の富育光先生や孫運来先生、郭淑雲先生などの諸先生に多大のご協力をいただいた。特に、調査地の王文波、閔建華シャーマン、閔雲徳氏族長は、食住を提供して下さっただけでなく、筆者を方々へ案内し、多くの資料や情報を紹介して下さった。また、吉林省民族研究所の富育光先生、上海社会科学院の王宏剛先生からの貴重なコメントをいただいた。日本宗教学会や「宗教と社会」学会で、窪田忠先生、池上良正先生、長谷部八郎先生、華立先生、玄善允先生、塩月亮子先生などの先生方からもたくさんのアドバイスをいただいた。

上記の方々ひとりひとりに多大なるご指導やご支援をあらためて厚くお礼を申し上げたい。

さらにずっと支持をしてくれた夫に感謝したい。

「千里の行も足元に始まる」というのは、筆者の座右の銘である。今後、「学問は一生のこと」という筆者を学問の道に連れていった嶋田恩師からの教えを心に銘記し、研究を発展させていきたい。これが応援をして下さった方々への恩返しではないかと考える。

しかし、言うまでもなく、本書の主張に対する責めはすべて筆者が負うものである。

最後に、本書の出版は2014年広東省創新強校日本語総合改革試点プロジェクトのご援助をいただいた。改めてお礼を申し上げたい。

2016年5月吉日

筆者 湛江にて

現代満州族シャーマニズムに関する文化人類学的研究
— シャーマンの神話・成巫過程・儀礼を中心として —

目 次

まえがき i

序 論 1

1. 本書の目的、方法、構成 1
2. 従来のシャーマニズム研究とその問題点 7
3. 現代中国におけるシャーマニズム研究の問題点 14
4. 満州族シャーマニズムの原型復元の試み 21

第1部 満州族の歴史と文化

第1章 古代の満洲 28

1. 満洲の呼称 28
2. 中国東北部の自然 29
3. 満洲の原初形態 32
4. 古代諸国家の進出と満洲の諸部族 33

第2章 現代の満州族 43

1. 言語 43
2. 満州族自治州 45
3. 満州族の人口 45

第3章 経済生活 48

1. 生業 48
2. 衣 49
3. 食 51
4. 住 53

第4章 社会生活…………… 57

- 1. 社会組織 57
- 2. 族譜 58
- 3. 相続制度 60
- 4. 年中行事 60
- 5. 人生儀礼 64

第2部 満州族シャーマンの神話

はじめに 68

第1章 柳神話…………… 70

- 1. 柳の神話 70
- 2. 柳祭 74
- 3. 柳と満州族の生活 81

第2章 創世神話「天宮大戦」…………… 83

- 1. 「天宮大戦」とシャーマニズム 84
- 2. 「天宮大戦」の内容 86
- 3. 「天宮大戦」神話の意味する世界観 93

第3章 創世女神阿布卡赫赫の神話…………… 95

- 1. 創世女神阿布卡赫赫の神話 95
- 2. 愛新覺羅族譜のなかの神話 97
- 3. 神話にみる特徴 99

第3部 満州族シャーマンの成巫過程

はじめに 102

第1章 シャーマンとは何か……………103

1. シャーマンの語源 103
2. 歴史のなかのシャーマン 104
3. 現代のシャーマン 107
4. 本書のシャーマンの分析視点 113

第2章 シャーマンになる過程……………116

1. シャーマンになる動機 116
2. シャーマンの成巫過程 117
3. 事例1—瓜爾佳氏族シャーマンの「擡神」儀式 120
4. 事例2—石氏族シャーマンの「擡神」儀式 124
5. 事例3—羅関氏族シャーマンの「擡神」儀式 129
6. 事例4—張氏族シャーマンの「擡神」儀式 131
7. 「擡神」儀式に対する考察 133

第3章 満州族シャーマンのライフヒストリー……………136

1. 石氏族におけるシャーマンたちのライフヒストリー 136
2. 瓜爾佳氏族におけるシャーマンのライフヒストリー 142
3. 羅関氏族におけるシャーマンのライフヒストリー 143
4. 張氏族におけるシャーマンのライフヒストリー 145
5. 胡氏族におけるシャーマンのライフヒストリー 146
6. 呉氏族におけるシャーマンのライフヒストリー 148
7. シャーマンのライフヒストリーの考察 150

第4部 満州族のシャーマニズム儀礼

はじめに 154

第1章 従来の満州族シャーマニズム儀礼の分類の問題点 ……155

1. 『欽定満洲祭神祭天典礼』の中の儀礼 155
2. 富育光の分類 156
3. 石光偉・劉厚生の分類 157
4. 筆者の分析視点 158

第2章 祈祷型儀礼 ……159

1. 本章の目的 159
2. 事例1—瓜爾佳氏族の焼香儀礼 160
3. 事例2—石氏族の焼香儀礼 181
4. 事例3—羅関氏族の焼香儀礼 193
5. 事例4—愛新覚羅氏族の儀礼 207
6. 祈祷型儀礼にみる特徴 214

第3章 憑依型儀礼 ……219

1. 本章の目的 219
2. 石氏族のシャーマン 220
3. 石氏族の跳大神儀礼の構造 220
4. 「清宅儀式」 246
5. 跳大神儀礼に見る特徴 247

第4章 憑依型儀礼—火祭— ……248

1. 本章の目的 248
2. 火の神話 249
3. 火への崇拜の歴史 249
4. 清朝時代の火祭 250

- 5. 2004年の石氏族の火祭 252
- 6. 火祭にみる特徴 256

第5章 憑依型儀礼— 漢軍八旗シャーマンの儀礼 —258

- 1. 本章の目的 258
- 2. 村落概況 258
- 3. 張氏族のシャーマン 259
- 4. 張氏族の儀礼の構造 260
- 5. 漢軍八旗シャーマンの儀礼の特徴 272

結 論273

- 1. 問題の所在— 現代中国におけるシャーマニズム研究のむずかしさ —
273
- 2. 結論 276

引用文献280